富田林市文化財調査報告53

平成25年度

# 富田林市内遺跡群発掘調査報告書

2014. 3

富田林市教育委員会

# はじめに

富田林市は、市域の中心を石川が流れ、緑豊かな丘陵と美しい田園風景が調和した自然環境に恵まれたまちです。そのなかでも、中央部の石川とその支流によって形成された平野部は、遺跡も多く存在することから、古くから人びとの営みが行われていたことがわかっています。

しかし、このような事実の蓄積は、多くの開発の中から生まれてきたものであり、発掘調査による新たな発見と引き換えに、遺跡の破壊がなされてきたことを看過することはできません。

本書は、平成25年に実施した緊急発掘調査の成果をまとめたものです。いずれも小規模な調査でしたが、遺跡の内容を知るうえで重要な成果を得ることができました。これらを次の世代に引き継ぐために、発掘調査で得られた見地を有効に活用されることを、望んでやみません。

最後になりましたが、調査および本書の刊行にご協力いただきました地元住民のみなさまや関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成２６年３月

富田林市教育委員会
教育長　堂　山　博　也

# 例　　言

1．本書は、平成25年度国庫補助事業「市内遺跡緊急発掘調査事業」の報告書である。

2．本事業は、富田林市教育委員会文化財課が、平成25年４月１日から平成26年３月31日にかけて実施した。現地調査および整理作業は、文化財課職員　中辻　亘、角南辰馬、同課非常勤職員水久保祥子、粟田　薫が担当し、同課職員　山崎紳司、同課非常勤職員　桑本彰子が補佐した。

3．本書には、整理作業等の都合から、平成25年12月31日までに現地調査が終了したものを掲載した。また、前年度事業分のなかで、同様の理由から報告できなかったものについても、あわせて掲載した。

4．本書の作成にあたっては、第３章を水久保が執筆した。それ以外の執筆および編集は、角南が行った。

5．平成25年の現地調査および整理作業には、以下の者の参加を得た。（敬称略）
板坂信治、上田伸子、小島扶左子、土山賀代、前野美智子

6．本書で使用する標高は、東京湾標準潮位（Ｔ．Ｐ．）で表示している。また、現地調査における土色の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編）を使用した。

# 目　　次

第１章　平成２５年の調査状況 …… 1
第２章　畑ヶ田南遺跡（ＨＤＳ２０１２－１）の調査
　第１節　調査の経緯と経過 …… 4
　第２節　調査の方法と成果 …… 4
　第３節　まとめ …… 7
第３章　錦織南遺跡（ＮＫＳ２０１３－１）の調査
　第１節　調査の経緯と経過 …… 8
　第２節　調査の方法と成果 …… 8
　第３節　まとめ …… 11
第４章　粟ヶ池遺跡（ＡＧ２０１３－１、－２）の調査
　第１節　調査の経緯と経過 …… 12
　第２節　調査の方法と成果 …… 13
　第３節　まとめ …… 15

# 挿　図　目　次

図１　市内遺跡分布図 …… 3
図２　調査位置（Ｓ＝１／4,000） …… 4
図３　トレンチ配置図（Ｓ＝１／600） …… 5
図４　トレンチ平面図（Ｓ＝１／100） …… 6
図５　調査位置（Ｓ＝１／5,000） …… 9
図６　トレンチ配置図（Ｓ＝１／800） …… 9
図７　トレンチ平面図（Ｓ＝１／150） …… 10
図８　土層断面柱状図（Ｓ＝１／40） …… 10
図９　調査位置（Ｓ＝１／4,000） …… 12
図10　トレンチ配置図（Ｓ＝１／400） …… 13
図11　トレンチ配置図（Ｓ＝１／200）および断面図（Ｓ＝１／40） …… 14

# 表　目　次

表１　発掘届（通知）受理件数 …… 1
表２　発掘調査一覧 …… 2
表３　試掘調査一覧 …… 2

# 図 版 目 次

図版１　畑ヶ田南遺跡（ＨＤＳ２０１２－１）
（上）１トレンチ近景（北東から）
（下）１トレンチ土層断面（東から）
図版２　畑ヶ田南遺跡（ＨＤＳ２０１２－１）
（上）１トレンチ土師器出土状況（北東から）
（下）２トレンチ近景（北西から）
図版３　畑ヶ田南遺跡（ＨＤＳ２０１２－１）
（上）２トレンチ東西方向近景（西から）
（下）２トレンチ北壁土層断面（南西から）
図版４　畑ヶ田南遺跡（ＨＤＳ２０１２－１）
（上）２トレンチ北壁土層断面（南東から）
（下）２トレンチ南北方向近景（北から）
図版５　錦織南遺跡（ＮＫＳ２０１３－１）
（上）１トレンチ近景（西から）
（下）１トレンチ北壁土層断面（南東から）
図版６　錦織南遺跡（ＮＫＳ２０１３－１）
（上）２トレンチ近景（南西から）
（下）２トレンチ北西壁土層断面（南から）
図版７　錦織南遺跡（ＮＫＳ２０１３－１）
（上）３トレンチ近景（北東から）
（下）３トレンチ南東壁土層断面（西から）
図版８　粟ヶ池遺跡（ＡＧ２０１３－１）
（上）１トレンチ近景（南から）
（下）１トレンチ西壁土層断面（南東から）
図版９　粟ヶ池遺跡（ＡＧ２０１３－１）
（上）２トレンチ近景（北東から）
（下）２トレンチ西壁土層断面（南東から）
図版10　粟ヶ池遺跡（ＡＧ２０１３－２）
（上）１トレンチ近景（北から）
（下）１トレンチ東壁土層断面（南西から）
図版11　粟ヶ池遺跡（ＡＧ２０１３－２）
（上）２トレンチ近景（南から）
（下）２トレンチ東壁土層断面（南西から）

# 第１章　平成25年の調査状況

平成25年１月から12月において、文化財保護法第93条・第94条に基づく発掘届・発掘通知は、表１のとおりであった。件数は前年度に比べると、40件増加している。これは五軒家遺跡内における大規模な宅地造成が完了し、分譲住宅に伴う発掘届が順々に出されていることが大きく関係している（すべて慎重工事で対応）。開発工事に先立って実施している発掘調査（本調査を含む）や、遺跡外における試掘調査の件数については、前年と大きな変化はない（表２・３）。

しかしながら、1,000㎡を超えるような大規模開発は増加傾向にある。上半期には前年に新規発見となった宮町今池遺跡（番号４）の本調査があり、下半期には畑ヶ田南遺跡（番号12）と錦織南遺跡（番号14）の本調査が重なった。調査体制が十分でない本市において、このような突発的な大規模開発への対応は極めて厳しい状況にある。

さて、平成25年に国庫補助事業として実施したのは、畑ヶ田南遺跡で１件（番号１）、錦織南遺跡で１件（番号10）、粟ヶ池遺跡で２件（番号15、17）の計４件である。すべて開発工事に先立ち、埋蔵文化財の取り扱いを決定するために実施した範囲確認調査である。粟ヶ池遺跡の１件以外は本発掘調査を実施しており、確認調査時の所見には修正が必要だが、記録として敢えてそのまま掲載した。

**表１　発掘届（通知）受理件数**

| | 発掘届出(93条) | | | | 発掘通知(94条) | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事前 | 立会 | 慎重 | 小計 | 事前 | 立会 | 慎重 | 小計 | |
| 道路 | | | | | 1 | 1 | | 2 | 2 |
| 鉄道 | | | | | | | | | |
| 空港 | | | | | | | | | |
| 河川 | | | | | | | | | |
| 港湾 | | | | | | | | | |
| ダム | | | | | | | | | |
| 学校 | | | | | | | | | |
| 宅地造成 | 3 | | | 3 | | | | | 3 |
| 個人住宅 | 1 | 29 | 32 | 62 | | | | | 62 |
| 分譲住宅 | 1 | | 23 | 24 | | | | | 24 |
| 共同住宅 | | 1 | | 1 | | | | | 1 |
| その他住宅 | | | 1 | 1 | | | | | 1 |
| 工場 | | | | | | | | | |
| 店舗 | 7 | | 4 | 11 | | | | | 11 |
| その他建物 | 2 | 2 | 2 | 6 | | | | | 6 |
| 土地区画整理 | | | | | | | | | |
| 公園造成 | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| ゴルフ場 | | | | | | | | | |
| 観光開発 | | | | | | | | | |
| ガス | | | 39 | 39 | | | | | 39 |
| 電気 | | | 4 | 4 | | | | | 4 |
| 水道 | | | | | | | 3 | 3 | 3 |
| 下水道 | | | | | | | 1 | 1 | 1 |
| 電話通信 | | 2 | | 2 | | | | | 2 |
| 農業基盤 | | | | | | | | | |
| 農業関係 | | | | | | | | | |
| 土砂採取 | | | | | | | | | |
| その他開発 | 1 | 1 | | 2 | | 1 | | | 3 |
| 小計 | 15 | 35 | 105 | 155 | 2 | 2 | 4 | 4 | 163 |

## 表2　発掘調査一覧

| 番号 | 調査日 | 所在地 | 遺跡名 | 調査原因 | 調査面積(㎡) | 調査結果 | 担当者 | 調査記号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1月9日～1月18日 | 若松町一丁目 | 畑ヶ田南遺跡 | 共同住宅(国庫) | 44 | ピット等を確認 | 角南 | HDS2012-1 |
| 2 | 1月15日 | 若松町五丁目 | 中野遺跡 | 店舗 | 1.6 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 3 | 1月21日 | 桜井町一丁目 | 桜井遺跡 | 共同住宅 | 2.9 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 4 | 1月26日～4月30日 | 宮町二丁目 | 宮町今池遺跡 | 店舗 | 2,615 | 土坑・溝等を確認 | 角南 | MTI2013-1 |
| 5 | 1月29日 | 若松町西三丁目 | 中野遺跡 | 店舗 | 51 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 6 | 3月12日 | 喜志町五丁目 | 喜志西遺跡 | 宅地造成 | 13 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 7 | 3月22日 | 喜志町五丁目 | 喜志西遺跡 | 宅地造成 | 8.4 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 8 | 5月9日 | 北大伴町三丁目 | 北大伴遺跡(B地区) | その他建物 | 9.1 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 9 | 5月16日 | 五軒家一丁目 | 五軒家遺跡 | 分譲住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 10 | 7月8日～7月10日 | 錦織南一丁目、二丁目 | 錦織南遺跡 | その他住宅(国庫) | 50 | ピット等を確認 | 角南・水久保 | NKS2013-1 |
| 11 | 7月11日 | 旭ヶ丘町 | 喜志西遺跡 | 店舗 | 1.4 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 12 | 7月18日～12月14日 | 若松町一丁目 | 畑ヶ田南遺跡 | 共同住宅 | 1,358.8 | ピット・溝等を確認(1番の本調査) | 角南 | HDS2013-1 |
| 13 | 8月30日 | 中野町三丁目 | 中野北遺跡 | 店舗 | 3 | ピットを確認 | 角南 | |
| 14 | 9月17日～12月26日 | 錦織南一丁目、二丁目 | 錦織南遺跡 | その他住宅 | 1795 | 竪穴住居・ピット等を確認(10番の本調査) | 水久保 | NKS2013-1 |
| 15 | 10月17日 | 桜井町二丁目 | 粟ヶ池遺跡 | 公園造成(国庫) | 7.5 | 落ち込みを確認 | 角南 | AG2013-1 |
| 16 | 12月10日 | 喜志町四丁目 | 喜志遺跡 | 店舗 | 6.5 | 溝を確認 | 角南 | KS2013-1 |
| 17 | 12月17日～12月19日 | 桜井町二丁目 | 粟ヶ池遺跡 | 個人住宅(国庫) | 11 | 遺構なし | 角南 | AG2013-2 |
| 18 | 12月24日 | 西板持町二丁目 | 西板持遺跡 | 店舗 | 2 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 19 | 12月25日 | 若松町西三丁目 | 中野遺跡 | 宅地造成 | 13.5 | 遺構なし | 角南 | |

## 表3　試掘調査一覧

| 番号 | 調査日 | 所在地 | 調査原因 | 調査面積(㎡) | 調査結果 | 担当者 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2月22日 | 山中田町二丁目 | その他建物 | 3.75 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 2 | 3月1日 | 喜志新家一丁目 | 個人住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 3 | 3月14日 | 平町一丁目 | 分譲住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 4 | 4月11日 | 谷川町一丁目 | 共同住宅 | 37.5 | 遺構・遺物なし | 中辻 | |
| 5 | 6月4日 | 大字彼方 | 個人住宅 | 2 | 遺構・遺物なし | 角南・水久保 | |
| 6 | 6月14日 | 五軒家一丁目 | 共同住宅 | 3.5 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 7 | 6月21日 | 大字廿山 | 店舗 | 1.6 | 遺構・遺物なし | 角南・水久保 | |
| 8 | 6月25日 | 若松町東三丁目 | 工場 | 6 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 9 | 7月12日 | 大字甘南備 | 土砂埋め立て | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 10 | 9月18日 | 若松町西一丁目 | 店舗 | 3.1 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 11 | 9月19日 | 常盤町 | 共同住宅 | 1.2 | 遺構・遺物なし | 水久保 | |
| 12 | 9月27日 | 寿町二丁目 | 宅地造成 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 13 | 10月4日 | 喜志町二丁目 | 分譲住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 14 | 10月4日 | 南大伴四丁目 | 共同住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 15 | 10月18日 | 若松町二丁目 | 共同住宅 | 2 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 16 | 10月18日 | 伏山二丁目 | その他建物 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 17 | 11月21日 | 常盤町 | 個人住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |
| 18 | 12月2日 | 錦織北二丁目 | 個人住宅 | 4 | 遺構・遺物なし | 水久保 | |
| 19 | 12月12日 | 甲田一丁目 | 店舗 | 5 | 遺構・遺物なし | 角南 | |
| 20 | 12月17日 | 昭和町二丁目 | 集合住宅 | － | 遺構・遺物なし | 角南 | 工事立会 |

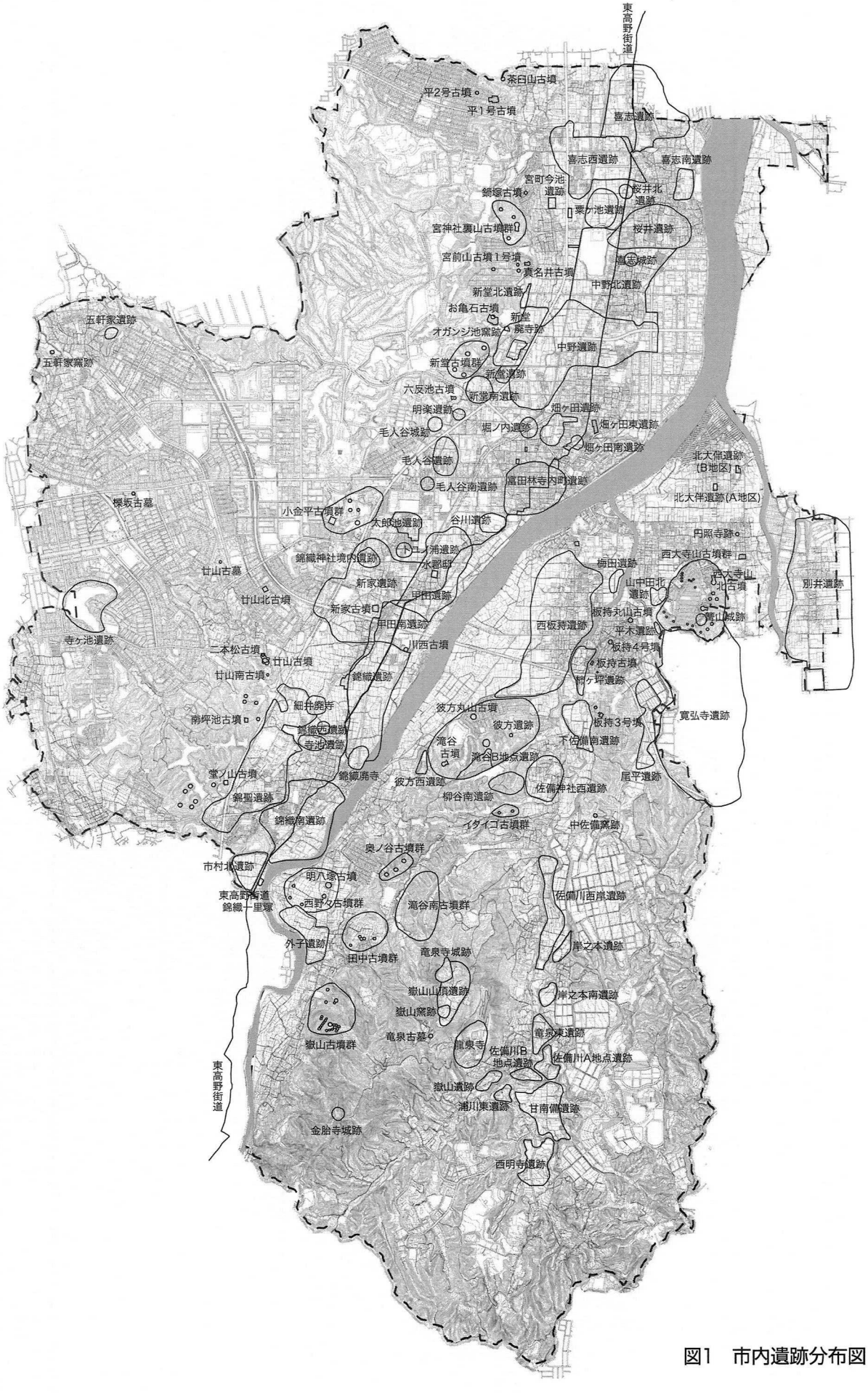

東高野街道
茶臼山古墳
平2号古墳
平1号古墳
喜志遺跡
喜志西遺跡
喜志南遺跡
宮町今池遺跡
錦塚古墳
桜井北遺跡
栗ケ池遺跡
宮神社裏山古墳群
桜井遺跡
宮前山古墳1号墳
喜志城跡
真名井古墳
中野北遺跡
新堂北遺跡
お亀石古墳
新堂
オガンジ池窯跡
廃寺跡
中野遺跡
五軒家遺跡
五軒家窯跡
新堂古墳群
新堂遺跡
六反池古墳
新堂南遺跡
明楽遺跡
畑ケ田遺跡
畑ケ田東遺跡
堀ノ内遺跡
毛人谷城跡
畑ケ田南遺跡
北大伴遺跡(B地区)
毛人谷遺跡
高田林寺内町遺跡
毛人谷南遺跡
北大伴遺跡(A地区)
櫟坂古墓
小金平古墳群
太郎池遺跡
谷川遺跡
円照寺跡
錦織神社境内遺跡
下ヨノ浦遺跡
水部駅
西大寺山古墳群
梅田遺跡
廿山古墓
新家遺跡
山中田北遺跡
西大寺山北古墳
別井遺跡
廿山北古墳
甲田遺跡
新家古墳
甲田南遺跡
板持丸山古墳
西板持遺跡
菅山城跡
平木遺跡
寺ケ池遺跡
川西古墳
板持4号墳
二本松古墳
廿山古墳
板持古墳
廿山南古墳
錦織遺跡
柳ケ坪遺跡
細井廃寺
彼方丸山古墳
南坪池古墳
錦織西遺跡
彼方遺跡
板持3号墳
寛弘寺遺跡
寺池遺跡
滝谷古墳
下佐備南遺跡
滝谷B地点遺跡
堂ノ山古墳
錦織廃寺
彼方西遺跡
佐備神社西遺跡
尾平遺跡
錦織遺跡
柳谷南遺跡
錦織南遺跡
イダイコ古墳群
中佐備窯跡
奥ノ谷古墳群
市村北遺跡
明八塚古墳
東高野街道
錦織一里塚
西野々古墳群
滝谷南古墳群
佐備川西岸遺跡
外子遺跡
田中古墳群
竜泉寺城跡
岸之本遺跡
嶽山山頂遺跡
岸之本南遺跡
嶽山窯跡
竜泉古墓
竜泉東遺跡
嶽山古墳群
龍泉寺
佐備川B地点遺跡
佐備川A地点遺跡
東高野街道
嶽山遺跡
浦川東遺跡
甘南備遺跡
金胎寺城跡
西明寺遺跡

図1　市内遺跡分布図

# 第2章　畑ヶ田南遺跡（HDS2012−1）の調査

## 第１節　調査の経緯と経過

畑ヶ田南遺跡は、石川の左岸に形成された中位段丘上に位置する。今回の調査地は、若松町一丁目に位置するみどり保育園跡地であり、市営若松第3住宅の建て替え用地としての計画があることから、範囲確認調査を行うことにした。調査地全体の約半分にあたる東側は、畑ヶ田南遺跡に含まれているが、西半分は遺跡外となっている。しかし、近接する畑ヶ田遺跡の遺構分布状況をみる限りでは、畑ヶ田遺跡との間の遺跡空白地帯にも、遺構が広がる蓋然性は高いと考えられた。

現地調査は2013年１月９日から同月18日まで実施し、実働日数は７日である。

## 第２節　調査の方法と成果

トレンチは園庭部分の２箇所に設定した。東側を１トレンチ（長さ約13.5m×幅約１m）、西側を２トレンチ（東西方向に長さ約20.5m×幅約1.2mと、南北方向に長さ約11.5m×幅約1.2mを組み合わせたＬ字形）とする。２トレンチ南北方向の南側では、機械掘削中に園庭以前の建物基礎が現れたため、一部調査をすることができなかった。しかし、その攪乱は遺構面には及んでおらず、本調査時には撤去したうえで調査が可能である。

図２　調査位置（Ｓ＝１／4,000）

**作業内容**

9日（水）晴れ　　1、2トレンチを設定。バックホウによる機械掘削および人力掘削。

10日（木）くもり　　1、2トレンチで人力掘削、遺構検出。

11日（金）晴れ　　2トレンチで人力掘削。

15日（火）くもり時々雨　　遺構面排水後、2トレンチで人力掘削。

16日（水）晴れ　　2トレンチで人力掘削、遺構検出。

17日（木）くもり　　1、2トレンチを精査し、写真撮影。終了後、平面・断面実測。

18日（金）晴れ時々雪　　1、2トレンチの平面・断面実測。終了後、バックホウで埋め戻し。

**1トレンチ**

基本層序は、盛土層（層厚約90cm）、旧耕作土層（約10cm）、旧耕作土層（約15cm）、旧床土層（約5cm）であり、現況面より深さ約1.2mで地山面となる。遺構検出は地山面で行い、落ち込み2基、ピット1基を確認した。落ち込みについては、それぞれ複数の遺構が重なっている可能性があるが、遺構面が青灰色に変色しているうえ、トレンチ幅が狭いため、詳細な検討ができなかった。

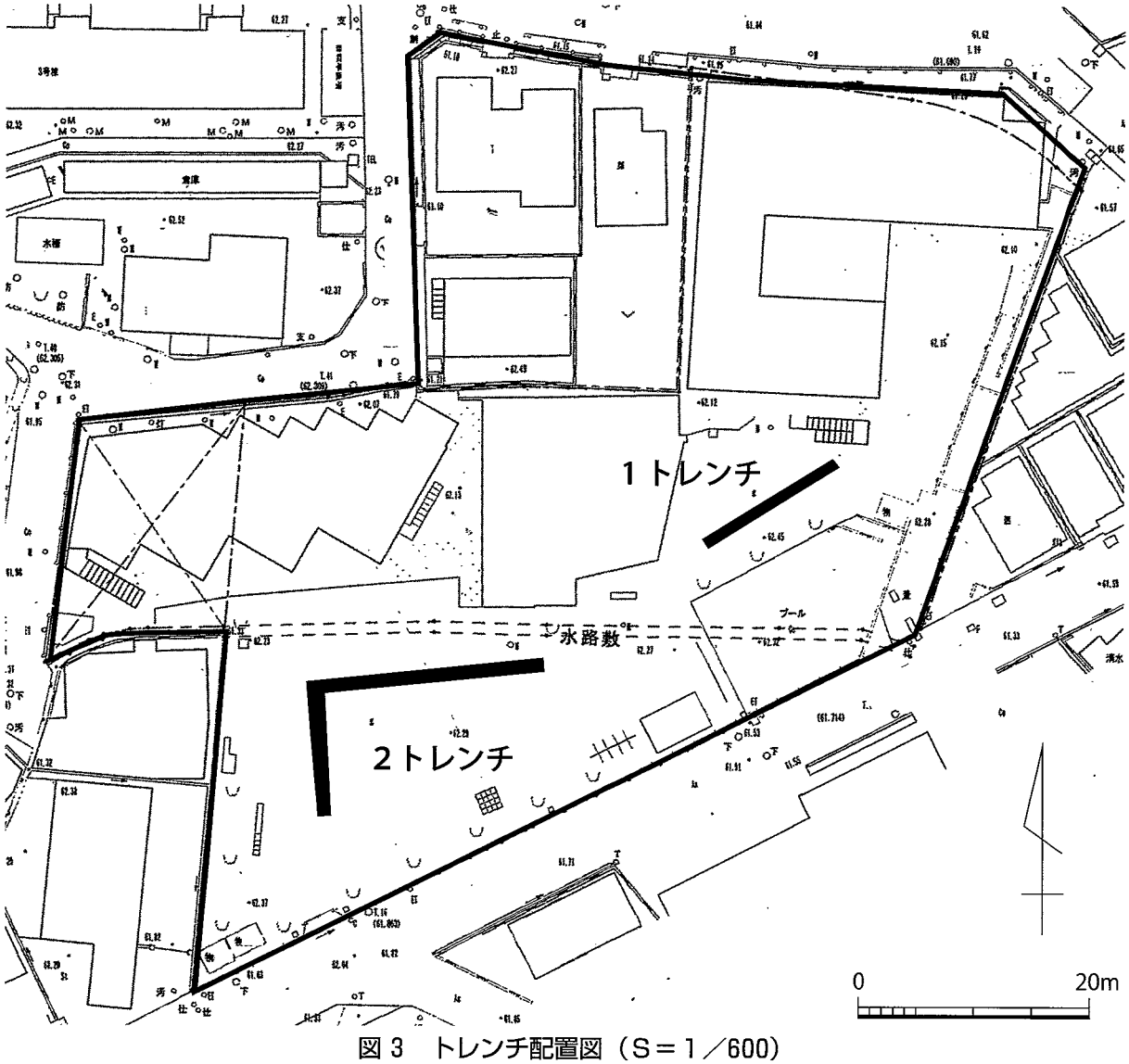



図3　トレンチ配置図（S＝1／600）

西側の落ち込み内には、トレンチ西壁にかかるようにして、原位置を保つ土師器羽釜が存在する。羽釜の口縁部は、直上にある旧床土を施す際に一部壊されているようだが、それより下は完存しているものと思われる。遺構面から約10㎝掘り下げたが、羽釜の据え付け痕は明瞭でなく、落ち込みとの切り合い関係は現段階では判断できなかった。これについては本発掘調査での課題とし、土嚢で養生したうえで埋め戻した。

## 2トレンチ

基本層序は、盛土層（層厚90～80㎝）、旧耕作土層（約10㎝）、旧床土層（約３㎝）、旧耕作土層（８～２㎝）、旧床土層（約３㎝）、堆積層（１５～８㎝）、地山である。現況面から地山面までの深さは、トレンチ東西方向の東端で約1.2ｍ、同西端で約1.1ｍ、南北方向の南端で約１ｍとなっており、地山面の傾斜がうかがえる。なお、現況面自体が南東方向に向かって下降しており、実際にはここで示した以上の高低差がある。

堆積層については、にぶい黄褐色粘質土もしくは灰黄褐色粘質土で構成され、トレンチ東西方向に認められた。当初はこの堆積層の上面で遺構検出を試みたが、堆積土のうち灰黄褐色粘質土が遺構埋土と極めて類似しており、判別が困難であったため、地山面まで掘り下げざるを得なかった。その後、トレンチの壁面にかかった遺構について観察を行ったが、堆積層の上面から掘り込まれていることを確認できたものは一部にとどまり、ほかは断面でも判別が難しい状況であった。

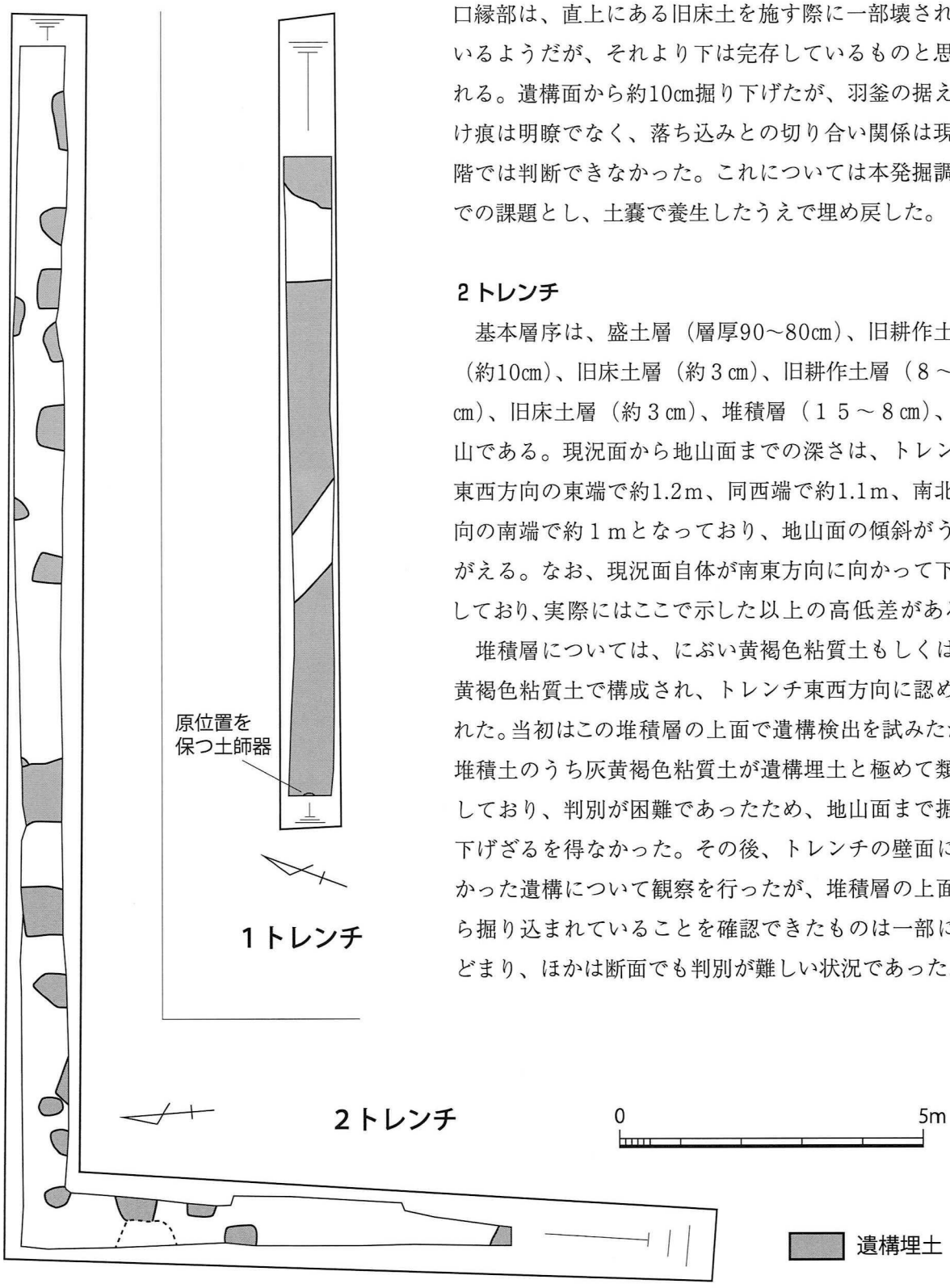



図４　トレンチ平面図（Ｓ＝１／100）

地山面で確認した遺構はピットで、その数は20基にも及ぶ。ほぼすべてがトレンチ壁面にかかる状態であるため、それぞれの規模は不明であるが、平面形が隅丸方形を呈するものが多くあり、なかには一辺が１m近くになる大きなものも含まれている。

堆積層を取り除く過程で、須恵器や土師器が出土している。掘削時には堆積層が包含層であり、遺物もその層からの出土と考えていた。しかし、地山面まで掘り下げた後、トレンチ壁面の断面を観察した限りでは、この堆積層に遺物は認められなかった。したがって、それらの遺物については、堆積層上面から掘り込まれた各ピットに属していた蓋然性が高い。ちなみに、これと類似した層は、現在のみどり保育園用地（旧・若松中央公園）で2011年度に実施した畑ヶ田遺跡の調査(HD2011－1)でも確認している。集落が展開される以前に堆積した層と考えられ、今回の調査地内においても、堆積層上面で遺構検出を行うのが正しいのであろう。しかし、既に述べたとおり、調査の技術的な面で困難を伴うことから、本発掘調査では慎重に遺構検出を行う必要がある。

## 第３節　まとめ

今回は幅１m程度のトレンチ調査であったにもかかわらず、１トレンチの検出面のほとんどは遺構埋土で占められ、２トレンチでも多数のピットを確認できた。これらのことから、相当数にのぼる遺構が計画地内に存在することは疑いない。

また、２トレンチのほとんどは遺跡外に位置しており、遺跡範囲の拡大手続きが急務である。今回の調査で出土した遺物の時期は、畑ヶ田遺跡の２０１１－１地点と重なるものである。畑ヶ田遺跡と畑ヶ田南遺跡は、行政区分上では別遺跡として扱われているものの、一体の遺跡になる蓋然性が高く、その範囲も市営住宅が建っている一帯に広がっていると思われる。

なお、本発掘調査は2013年７月から12月にかけて実施している。すでに現地説明会等で公表しているように、飛鳥時代のものとみられる陶硯がみつかるなど、大きな成果が得られている。しかし、整理作業はこれからであり、別の機会で報告を行うことにする。

# 第３章　錦織南遺跡（ＮＫＳ2013－1）の調査

## 第１節　調査の経緯と経過

錦織南遺跡は石川の左岸、近鉄河内長野線滝谷不動駅の南西に広がっている。縄文時代から中世に至る複合遺跡で、その規模は南北630ｍ、東西740ｍにおよぶ。大阪府教育委員会と富田林市教育委員会が実施してきた過去の調査では、旧国道170号線の西側から、奈良時代から中世にかけての掘立柱建物や井戸などの集落に関連する遺構が検出されているのに対し、東側では河道が検出されているだけで明確な遺構は確認されておらず、遺跡の中心が西側に展開することが想定されている。

調査地は、遺跡の中心からやや南側にあたる旧170号線の西側に所在している。当該地において、老人デイサービス・サービス付高齢者住宅の建設計画が持ち上がったことから、範囲確認調査を実施した。調査期間は2013年７月８日から同月10日までの３日間で、調査面積は計50㎡である。

## 第２節　調査の方法と成果

建物建設予定地にトレンチを３箇所設定し、掘削順に西から１トレンチ（19ｍ×１ｍ）、２トレンチ（16ｍ×１ｍ）、３トレンチ（15ｍ×１ｍ）と呼称した。調査は、まずバックホウによって機械掘削を行い、その後、人力掘削によって遺構の検出を行った。

### 作業内容

８日（月）晴れ　　１トレンチのバックホウによる機械掘削、及び人力掘削。遺構面精査、写真撮影。遺構掘削、断面写真撮影。平面図・土層柱状図作成。バックホウによる埋め戻し。

９日（火）晴れ　２トレンチのバックホウによる機械掘削、及び人力掘削。遺構面精査、写真撮影。平面図・土層柱状図作成。バックホウによる埋め戻し。

10日（水）晴れ　　３トレンチのバックホウによる機械掘削、及び人力掘削。遺構面精査、写真撮影。平面図・土層柱状図作成。バックホウによる埋め戻し。レベル移動。

### １トレンチ

基本層序は、①・②盛土（層厚1.15～1.2m）、④旧耕作土（５～10cm）、⑤⑨層と⑩層のブロックを含む黄灰色粘質土（25～30cm）、⑨黒褐色粘質土（15cm）、⑩にぶい黄橙色粘質土（地山）となっている。遺構は、⑩層上面で検出した。ピットを２基確認し、全形を検出したピット１のみ半裁して断面観察を行った。ピット１の平面形は長径60cm、短径約40cmの楕円形を呈し、深さは14～24cmである。埋土は灰黄褐色粘質土で、土師器片と両黒の黒色土器の細片が出土している。なお、トレンチ西端にて、⑩層をさらに掘り下げていくと礫層となり、激しい湧水が認められた。

### ２トレンチ

基本層序は、①・②盛土（層厚1.3～1.35m）、④旧耕作土（５cm）、⑤⑨層と⑩層のブロックを含む黄灰色粘質土（30～３５cm）、⑧にぶい黄橙色粘質土（10cm）、⑨黒褐色粘質土（20～30cm）、⑩にぶい黄橙色粘質土（地山）となっており、⑧層についてはトレンチの東半にのみ堆積している。遺構は、⑩層上面で検出した。トレンチの中央で幅約３～3.8mの溝状の、さらにそこから北東へ約

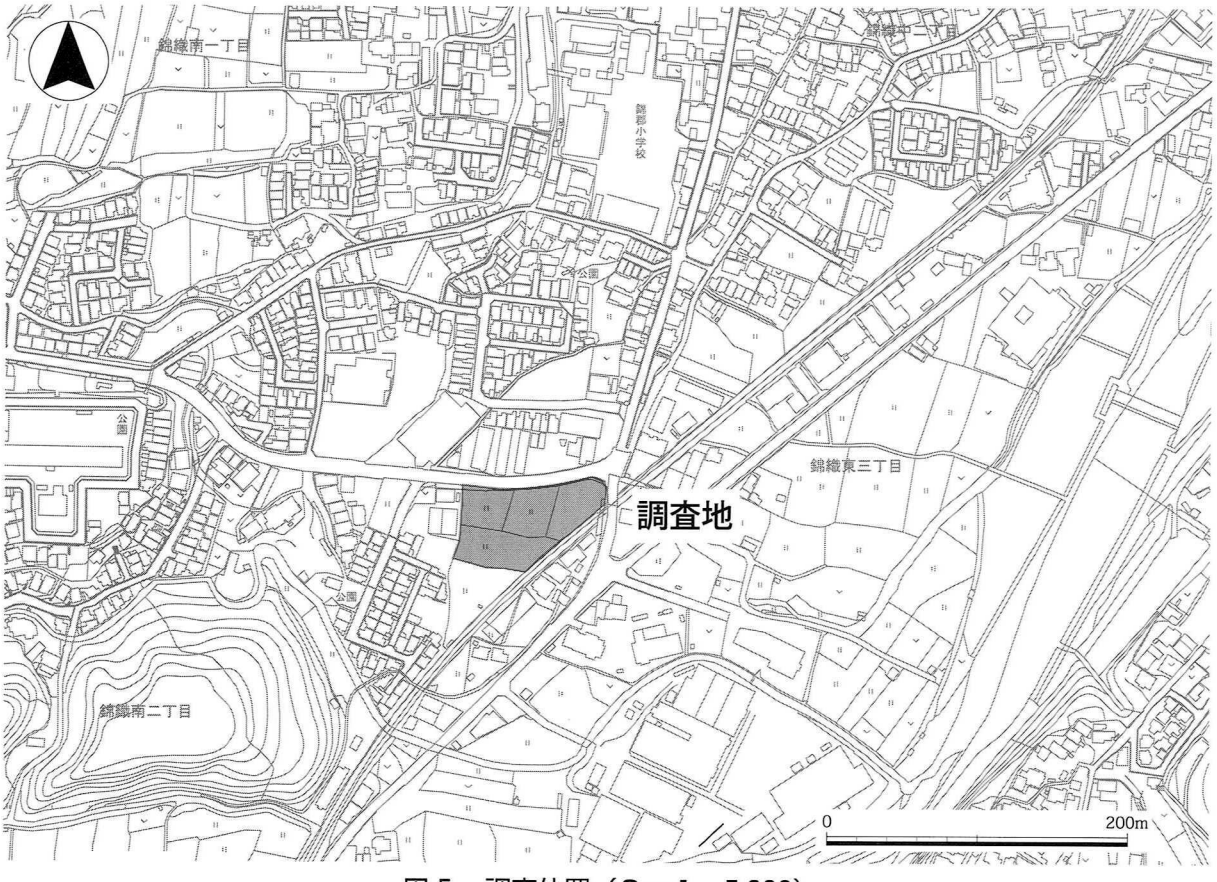



図５　調査位置（Ｓ＝１　5,000）

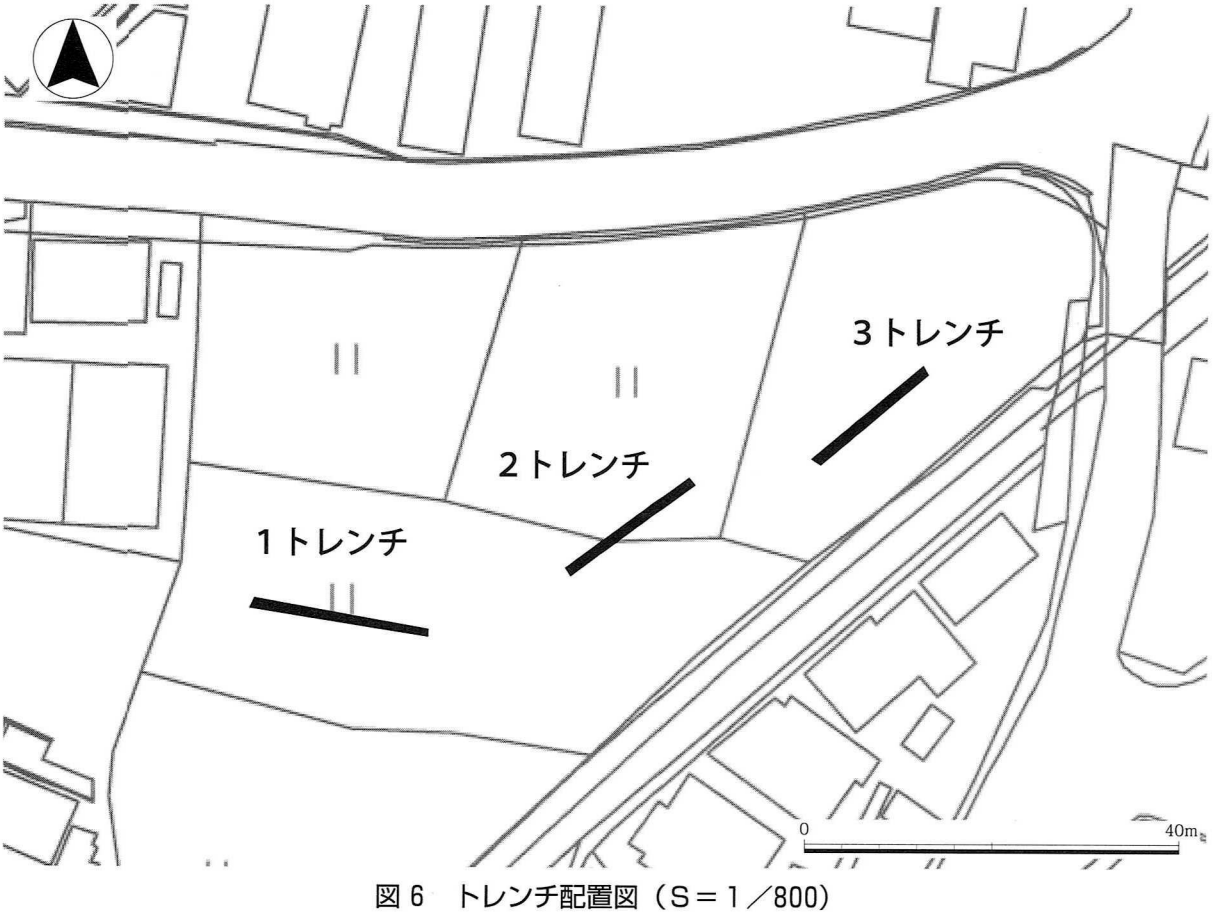



図６　トレンチ配置図（Ｓ＝１／800）

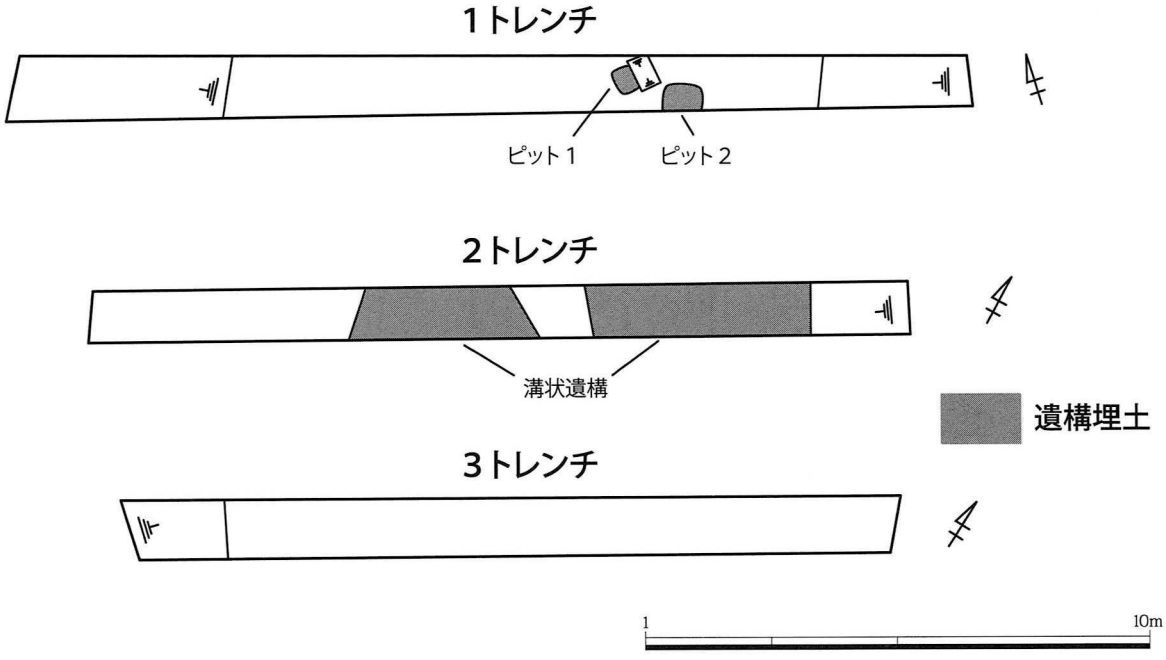



図7　トレンチ平面図（S＝1／150）

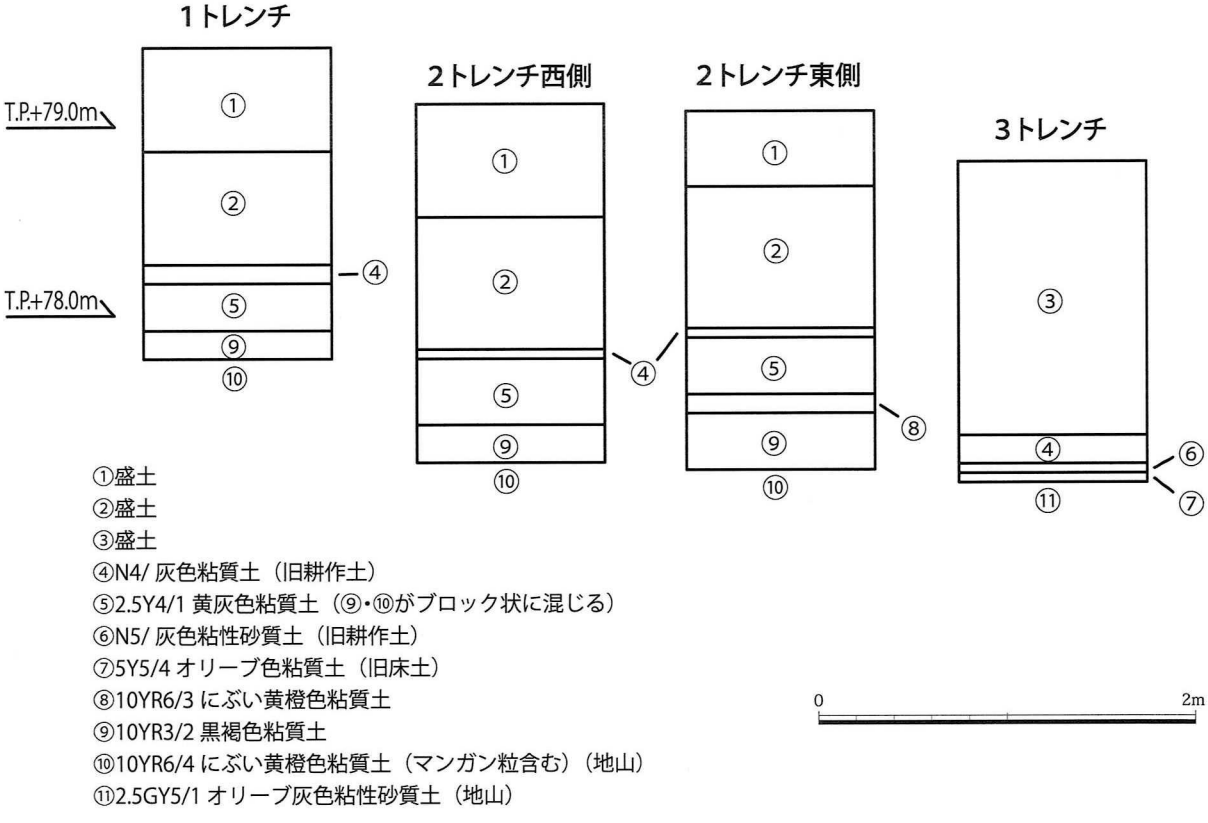



図8　土層断面柱状図（S＝1／40）

1～1.4mの地点でトレンチの外へ継続する溝状の遺構かと思われる地山面とは様相が異なる部分を確認した。また、1トレンチと同様に湧水が認められた。

遺物は、⑤層から土師器、須恵器、近世瓦、陶磁器が出土している。⑧・⑨層は調査の進行上、分けずに取り上げ、今回の調査で最も多く遺物を確認した。縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土しており、幅広い時期の遺物を含んでいる。土師器には古墳時代の高坏の脚部片、須恵器には古墳時代後期の坏身片がある。

### 3トレンチ

基本層序は、③盛土（層厚1.45m）、④旧耕作土（15cm）、⑥旧耕作土（5cm）、⑦旧床土（5cm）、⑪オリーブ灰色粘性砂質土（地山）となっており、1・2トレンチで堆積していた⑤層と⑧・⑨層は認められない。3トレンチにおいては特に湧水が顕著で、⑪層を検出するとすぐに面を覆うように浸水してしまったため、遺構確認は不可能であった。なお、地山面をさらに掘削すると礫層となっている。

遺物は、旧耕作土である④・⑥層から、古墳時代後期の須恵器坏身片、瓦器、近世瓦などが出土している。

## 第3節　まとめ

今回の調査では、3トレンチでは浸水の影響で明確に確認し得なかったものの、1・2トレンチの地山上面において遺構を確認しており、遺物については全てのトレンチで出土した。特に2トレンチの⑧・⑨層で比較的多く出土しており、周辺での遺構の存在が想定される。前述のとおり、本遺跡は、旧170号線を挟んで東側に石川の旧河道、西側に奈良時代から中世の集落域が広がると想定されている。当該地は旧170号線の西側にあたり、検出した遺構や遺物はそれら集落域につながる可能性がある。その一方で、当該地の北側で実施された調査（本市1996年）では西側においても旧河道が検出されており、当該地においても砂礫層が認められるなど、旧河道につながる様相も見受けられる。

以上の成果から、本発掘調査が必要であると判断し、2013年9月から同年12月にかけて集落域と河道域との境界や旧地形の確認等を課題として本発掘調査を行った。その調査成果については現在整理中であり、別途報告するものとする。

#### 参考文献

大阪府教育委員会1981『錦織南遺跡―縄文時代晩期河道の調査―』

大阪府教育委員会1985「錦織南遺跡発掘調査概要」『大阪府文化財調査概要1984年度』

大阪府教育委員会1986「第2章　錦織南遺跡の調査」『錦織遺跡発掘調査概要―富田林市錦織所在―』

錦織南遺跡調査会1993『錦織南遺跡』

錦織南遺跡調査会1994『錦織南遺跡Ⅱ』

富田林市教育委員会1996「Ⅱ錦織南遺跡」『平成7年度　富田林市内遺跡群発掘調査報告書』（富田林埋蔵文化財調査報告27）

富田林市教育委員会1998「Ⅱ錦織南遺跡」『平成9年度　富田林市内遺跡群発掘調査報告書』（富田林埋蔵文化財調査報告29）

# 第４章　粟ヶ池遺跡（ＡＧ2013－1、－2）の調査

## 第１節　調査の経緯と経過

粟ヶ池遺跡は、石川の西岸に形成された中位段丘上に位置し、南側は粟ヶ池に接している。須恵器やサヌカイトの散布地として知られ、これまで本格的な調査は行われたことがないが、２度にわたって実施している小規模調査の概要をまず紹介しておきたい。

一つは、2006年度に実施した保育園建設に先立つ事前調査（ＡＧ2006）である。この調査では、現況面から約1.5ｍまで掘削を行っているが、砂質土を主体とする堆積が続くのみで、地山は確認できていない。遺構、遺物も認められないため、調査担当者はこの堆積を「旧河道のもの」と判断している。

もう一つは、2010年度に実施した集会所建設に先立つ事前調査（ＡＧ２０１０－１）で、浄化槽部分で調査を行った。床土直下の極めて浅いレベルにある地山面において、多数のピットを確認している。これらの所属時期は明確でないが、１基のピットからは６世紀後半のものとみられる須恵器坏蓋が出土している。

2013年度は、桜井町二丁目に位置する２地点において、児童遊園の新設工事と個人住宅の新築工事が計画されたことから、それぞれ範囲確認調査を行った。前者（ＡＧ２０１３－１）は2013年10月17日に、後者（ＡＧ２０１３－２）は2013年12月17日、19日に現地調査を実施した。

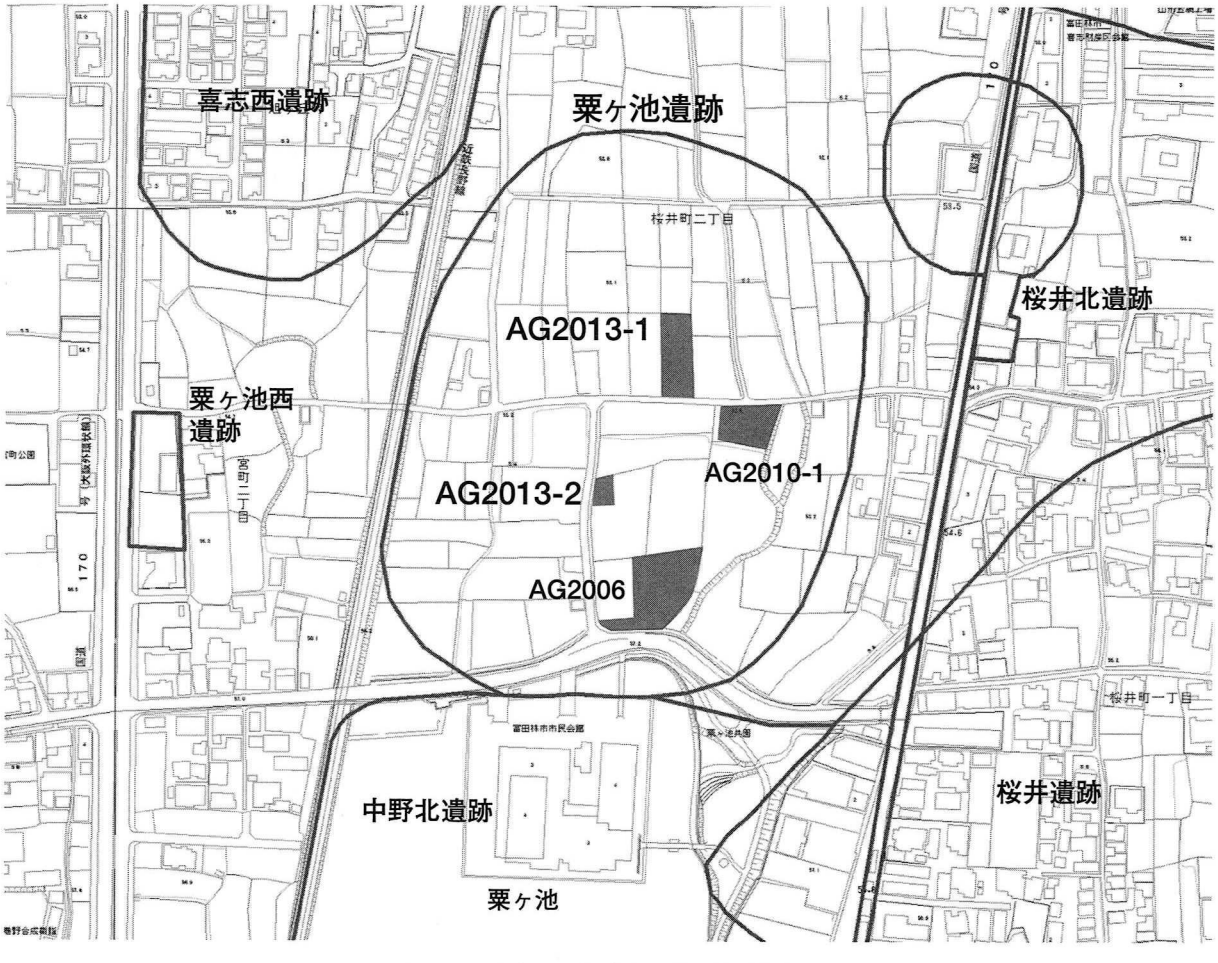



図９　調査位置（Ｓ＝１／4,000）

## 第２節　調査の方法と成果

### （1）AG2013－1

調査地の現況は畑であり、東側の境界には擁壁が設置されている。この擁壁の南端を起点とし、西へ４ｍ、北へ10ｍ進んだ地点から北に向かって、長さ約10ｍ、幅約0.5ｍの１トレンチを設定した。さらに、１トレンチの北端から北へ10ｍ進んだ地点から、長さ約５ｍ、幅約0.5ｍの２トレンチを設定した。

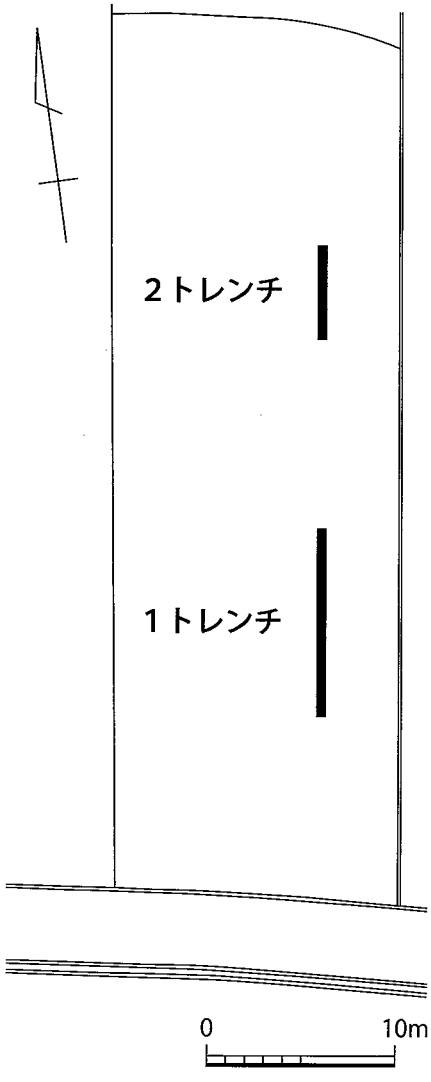


図10　トレンチ配置図（S=1／400）

#### １トレンチ

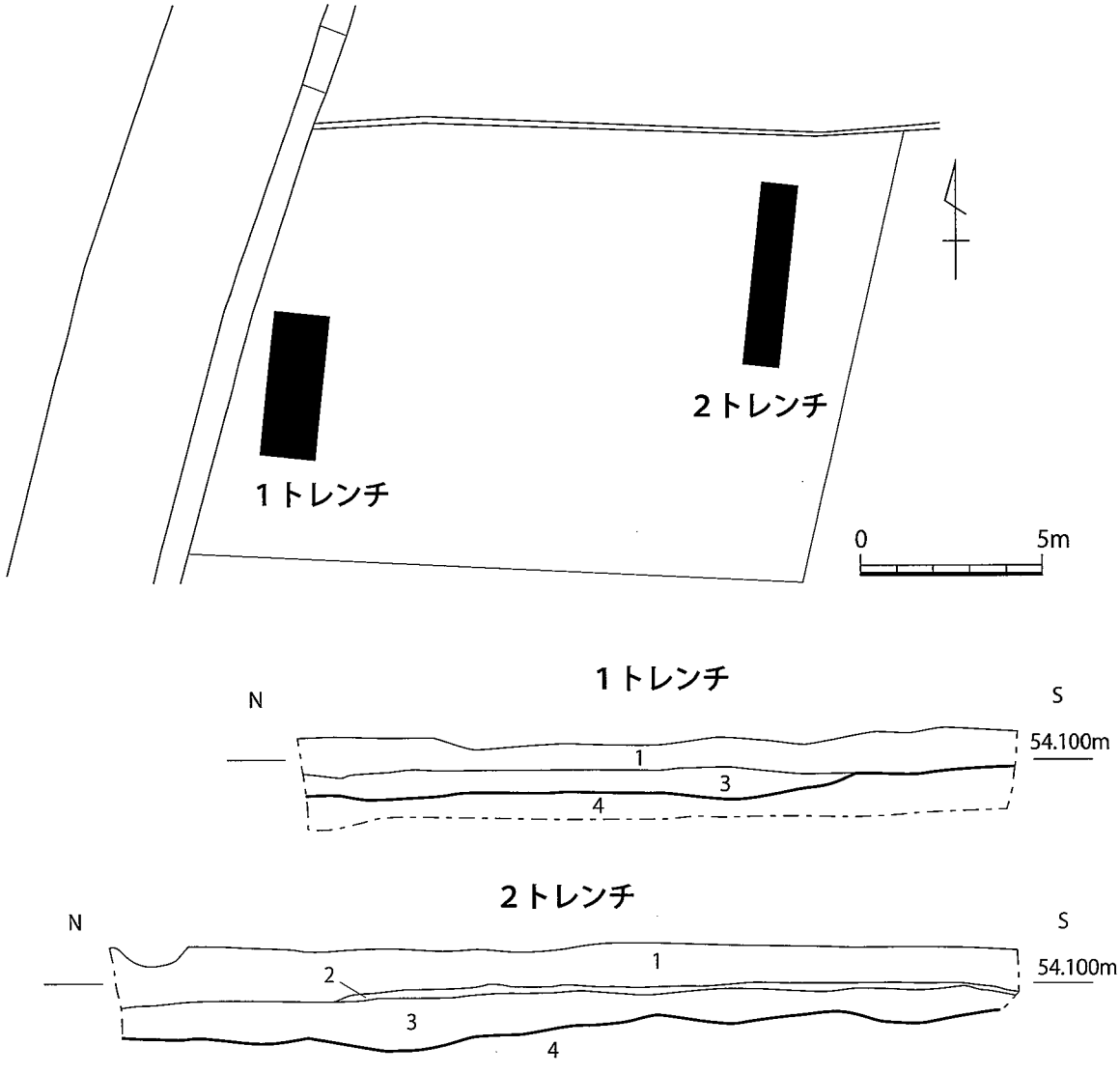
現況面から深さ約50㎝まで掘削を行った。基本層序は地表面から順に、耕作土・床土層、１面ないしは２面の旧耕作土・旧床土層、灰黄褐色砂礫層（にぶい黄褐色粘質土がまじる）、灰黄褐色砂礫層である。２層に分層した灰黄褐色砂礫層は、どちらも遺物を多量に含んでおり、須恵器片、土師器片、サヌカイト片、埴輪片などがある。須恵器は時期の分かるものとしては、６世紀代のものと８世紀後半の２時期がある。上層の灰黄褐色砂礫層の層厚はおおむね10㎝であり、現況面からそこまでの深さは、トレンチ南端で約25㎝、北端で約40㎝であった。

#### ２トレンチ

１トレンチの状況をふまえ、現況面から深さ約40㎝まで掘削した。基本層序は地表面から順に、耕作土・床土層、２面の旧耕作土・旧床土層であり、掘削底でにぶい黄褐色粘質土となる。しかし、にぶい黄褐色粘質土が認められたのは、トレンチ北端から南へ約１ｍの範囲だけで、それより南側は灰黄褐色粘質土が広がっていた。そこで、トレンチ南端をさらに約30㎝掘り下げて土層を観察したところ、灰黄褐色粘質土層は層厚が約15㎝で、その下は灰黄褐色粘性砂質土が続いていることが分かった。旧床土との境目にあたる灰黄褐色粘質土層の上面を中心に、須恵器片、土師器片、サヌカイト片が出土している。

#### 小結

先述した2010年度調査地（ＡＧ２０１０－１）では、耕作土・床土直下で黄褐色粘質土の明瞭な地山面を確認しているが、両トレンチではこれに相当する土層は見当たらない。しかし、周辺地形をみる限りでは、両調査区の間で地山面が急激に下降しているとは考えにくく、にぶい黄褐色粘質土層の上面が遺構面となるのであろう。この理解が正しければ、灰黄褐色砂礫や同色粘質土は単なる包含層にはならず、落ち込みの埋土と考えざるを得ない。しかし、その幅は相当に広いため、浅い谷地形や、埴輪の存在を重視して埋没古墳の周溝を候補として挙げておきたい。




1．耕作土　2．床土　3．10YR5/3　にぶい黄褐色粘質土【旧耕作土か】
4．7.5YR 6/8　橙色粘質土（礫を多く含む）【地山】

0　1m

図11　トレンチ配置図（S＝1／200）および断面図（S＝1／40）

## （2）AG2013−2

調査地の現況は畑である。浄化槽の予定箇所に1トレンチ（長さ約4m、幅約1.5m）、建物の予定箇所に2トレンチ（長さ約5m、幅約1m）を設定した。

### 作業内容

17日（火）くもり　　市街区基準点1A062から現場西側のKBMまでレベル移動。1トレンチの設定、人力掘削。トレンチ東壁を実測し、終了後人力埋め戻し(途中で終了)。2トレンチの設定、掘削。平板を用いて両トレンチと周辺地形を実測。

19日（木）雨　　2トレンチの人力掘削。トレンチ東壁の実測。終了後、1トレンチの残りと2トレンチの人力埋め戻し。

### 1トレンチ

トレンチ南端では、耕作土の直下が地山となる。地山面までの深さは約20㎝である。トレンチ南端から北へ約90㎝で地山面は下降するが、再び水平に近い形となる。この落ち込みを埋めるように、旧耕作土とみられるにぶい黄褐色粘質土が堆積している。この層には、須恵器片、土師器片が少量含まれていた。地山面までの深さは、トレンチ北端で約３０㎝である。地山面で精査して遺構検出に努めたが、遺構は認められなかった。

### 2トレンチ

耕作土の直下には、北側を除いて床土が残っており、その下には１トレンチと同様ににぶい黄褐色粘質土が堆積している。土師器片、須恵器片が含まれていたが、１トレンチに比べるとさらに少量である。地山面は北へ緩やかに下降しており、地山面までの深さはトレンチ南端で約35㎝、北端で約50㎝である。地山面で遺構検出に努めたが、遺構は認められなかった。

## 第3節　まとめ

これまで調査機会の少なかった粟ヶ池遺跡であるが、偶然にも時期的に近接して２件の開発計画が持ち上がり、調査のメスが入った。その結果は対照的なもので、遺構の分布域を知るうえでも重要な成果を得ることができた。

ＡＧ２０１３－１地点については、遺構の性格は不明であるが、工事に先立って本発掘調査が必要と判断した。本発掘調査は、擁壁が設置される調査地外周と、ドレーン設置部分が対象となり、2014年１月から２月にかけて実施している。その成果は現在整理中であり、別の機会で報告を行う。

一方のＡＧ2013－2地点については、遺構を確認できず、本発掘調査の必要はなしと判断した。トレンチを入れた箇所が、遺構の空白地帯であった可能性もあり、今回の結果をもって遺構の広がりを結論付けるのは危険である。しかし、仮にこの地点周辺に遺構が存在するとしても、北東の調査地一帯（ＡＧ２０１０－１、２０１３－１）とは遺構密度にかなりの差があることになる。遺物の出土量の差もそれを物語っているといえよう。

これまで良好に保存されてきた粟ヶ池遺跡であるが、今回を機に周辺で開発が増加する可能性がある。遺構は現況面から極めて浅いところにあり、今後注意が必要である。

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | へいせい25ねんど　とんだばやししないいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 平成25年度　富田林市内遺跡群発掘調査報告書 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 富田林文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 53 |
| 編著者名 | 角南辰馬（編）　水久保祥子 |
| 編集機関 | 富田林市教育委員会 |
| 所在地 | 〒584-8511　大阪府富田林市常盤町１番１号　TEL 0721-25-1000(代) |
| 発行年月日 | 2014（平成26）年3月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積<br>(㎡) | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| はたけだみなみいせき<br>畑ヶ田南遺跡 | とんだばやしし<br>富田林市<br>わかまつちょういっちょうめ<br>若松町一丁目 | 27174 | 159 | 34°<br>30′<br>13″ | 135°<br>36′<br>20″ | 2013.01.09<br>～<br>2013.01.18 | 44 | 範囲確認<br>調査 |
| にしこおりみなみいせき<br>錦織南遺跡 | とんだばやしし<br>富田林市<br>にしこおりみなみいっちょうめ にちょうめ<br>錦織南一丁目、二丁目 | 27174 | 139 | 34°<br>28′<br>35″ | 135°<br>34′<br>52″ | 2013.07.08<br>～<br>2013.07.10 | 50 | 範囲確認<br>調査 |
| あわがいけいせき<br>粟ヶ池遺跡 | とんだばやしし<br>富田林市<br>さくらいちょうにちょうめ<br>桜井町二丁目 | 27174 | 13 | 34°<br>31′<br>11″ | 135°<br>36′<br>29″ | 2013.10.17 | 7.5 | 範囲確認<br>調査 |
| あわがいけいせき<br>粟ヶ池遺跡 | とんだばやしし<br>富田林市<br>さくらいちょうにちょうめ<br>桜井町二丁 | 27174 | 13 | 34°<br>31′<br>11″ | 135°<br>36′<br>29″ | 2013.12.17<br>～<br>2013.12.19 | 11 | 範囲確認<br>調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 畑ヶ田南遺跡 | 集落跡 | 弥生～中世 | ピット、落ち込み | 須恵器、土師器 | |
| 錦織南遺跡 | 集落跡 | 縄文～中世 | ピット、溝 | 須恵器、土師器、黒色土器 | |
| 粟ヶ池遺跡 | 集落跡 | 弥生～近世 | 落ち込み | 須恵器、土師器、埴輪 | |
| 粟ヶ池遺跡 | 集落跡 | 弥生～近世 | なし | 須恵器、土師器 | |

# 図　　版

図版1　畑ヶ田南遺跡（HDS20012—1）

（上）１トレンチ近景
（北東から）

（下）１トレンチ土層断面
（東から）

# 図版2　畑ヶ田南遺跡（HDS20012—1）

1トレンチ土師器出土状況（北東から）

2トレンチ近景（北西から）

図版3　畑ケ田南遺跡（HDS20012—1）

（上）2トレンチ
東西方向近景
（西から）

（下）2トレンチ
北壁土層断面
（南西から）

図版4　畑ヶ田南遺跡（HDS20012—1）

（上）2トレンチ
北壁土層断面
（南東から）

（下）2トレンチ
南北方向近景
（北から）

図版5　錦織南遺跡（NKS20013—1）

1トレンチ近景（西から）

1トレンチ北壁土層断面（南東から）

図版6　錦織南遺跡（NKS20013—1）

2トレンチ近景（南西から）

2トレンチ北西壁土層断面（南から）

図版7　錦織南遺跡（NKS2013−1）

3トレンチ近景（北東から）

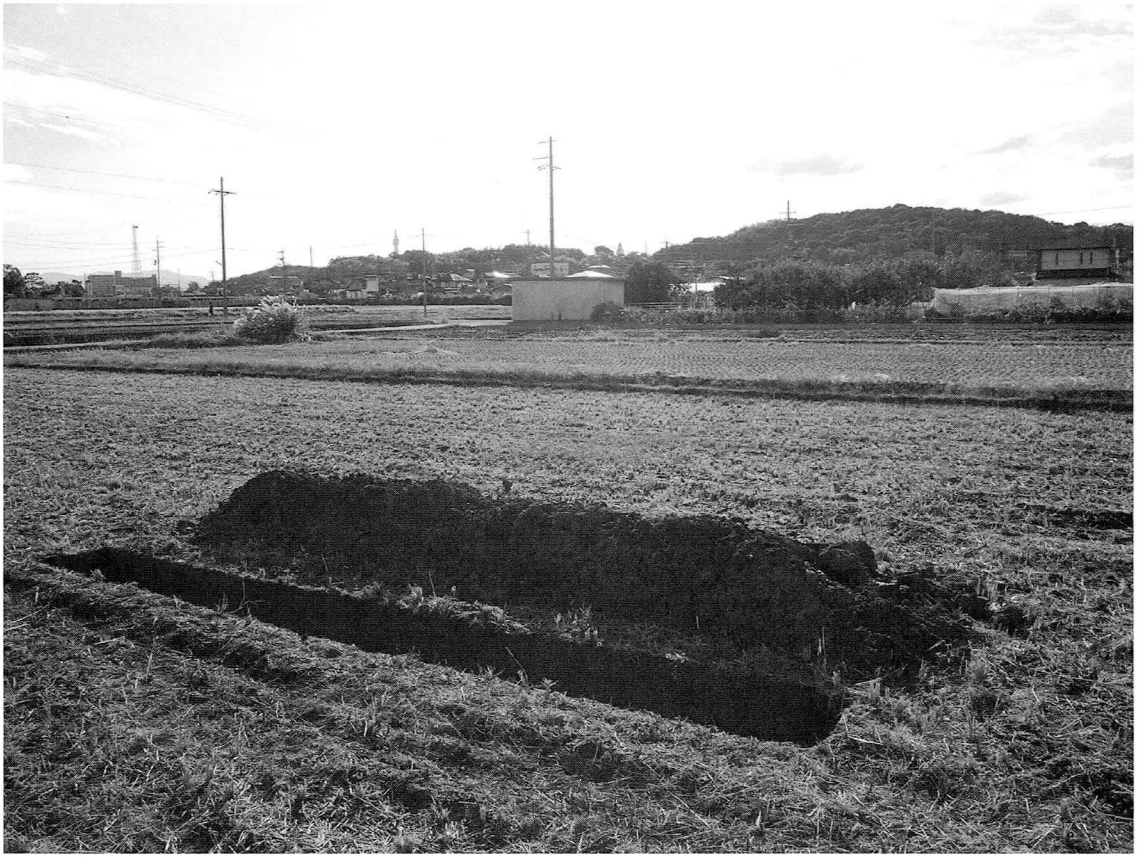
3トレンチ南東壁土層断面（西から）

# 図版8　粟ヶ池遺跡（AG2013—1）

（上）1トレンチ近景
（南から）

（下）1トレンチ
西壁土層断面
（南東から）

図版9　粟ケ池遺跡（AG20013−1）



2トレンチ近景（北東から）

2トレンチ西壁土層断面（南東から）

図版10　粟ヶ池遺跡（AG2013−2）

1トレンチ近景（北から）

1トレンチ東壁土層断面（南西から）

図版11　粟ケ池遺跡（AG20013—2）

2トレンチ近景（南から）

2トレンチ東壁土層断面（南西から）

**平成25年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書**

| | |
|---|---|
| 発行年月日 | 2014年３月31日 |
| 編集・発行 | 富田林市教育委員会 |
| 住　　所 | 富田林市常盤町１番１号 |
| 印　　刷 | 明朗社 |

2014.300